

井出がランで健闘して8位

2008ITUトライアスロンワールドカップ・ムールラバ大会速報

優勝は、スノーシル(AUS)とゴメス(ESP)

2008年3月30日(日)、オーストラリア・クィーンズランド州のリゾート地・ムールラバで、2008年の開幕戦となるITUワールドカップ・ムールラバ大会が開催された。

これは、8月に行われる北京オリンピックへ向けて各国の選手とも代表の座を得るためのオリンピック出場ポイントを得られる重要な大会。

気温26度であったが、晴れのためにその後気温は上がった。午前11時20分スタートの女子は、1周回のスイムをローラ・ベネット(アメリカ)が20分26秒で上がると2秒差でエマ・スノーシルとバネッサ・フェルナンデス(ポルトガル)が続いた。日本選手は、井出樹里(トーシン・日東紅茶・TEAM KEN'S)と古谷あかね(トヨタ車体)が20分40秒で後を追った。

バイクに入ると、2周目には30名近い第1集団ができ、そこにはベネット、スノーシル、フェルナンデス、そして井出も入っていた。第2集団は約10名で、庭田清美(アシックス・ザバス)、忽那静香(トーシン・日東紅茶・TEAM KEN'S)、古谷が入った。

ランでは、スノーシルとフェルナンデスが最初からサイド・バイ・サイドを繰り広げたが、「フェルナンデスをリードしたのは5km付近。そこから、いつ追いつかれるか不安だった。フィニッシュでやっと優勝を確信した」とレース後に語ったスノーシルが2時間44秒で優勝した。2位はフェルナンデス、3位はリサ・ノルデン(スウェーデン)。



砂浜を走り込んで始まるスイム(男子)



ムールラバの目抜き通り走るバイク。中央は優勝したゴメス

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



井出がランで健闘して8位

2008ITUトライアスロンワールドカップ・ムールラバ大会速報

井出は、「ランがいま一つだったのが残念」としながらも8位となった。そのほかの選手は、庭田37位、忽那38位、古谷43位だった。

午後1時55分スタートとなった男子は18分51秒でマイク・ペッツォールド（ドイツ）が水から上がると2秒後にテレンゾ・ボゾン（ニュージーランド）、その2秒後にオリバー・フリーマン（イギリス）が続く。日本選手トップは杉本宏樹（チームテイケイ）の19分10秒。

バイクでは、2周目の終わりには50名ほどの大集団ができ、勝負の分かれ目はランへと移った。

結局ランを制したのは「北京のために弾みがついた」と喜んだチャベール・ゴメス（スペイン）で、1時間49分50秒で優勝。2位はブラッド・カーフェルト（オーストラリア）、3位はランで追いつけたティム・ドン（イギリス）。

日本選手は、「ランの後半が伸びなかった」とコメントした山本良介（トヨタ車体）が26位。以下、西内洋行（西京味噌）34位、杉本55位、細田雄一（ウイダー）60位だった。

北京オリンピックには、5月3日のASTCアジア選手権グアンズー大会（中国）に優勝、または6月8日のITU世界選手権バンクーバー大会（カナダ）で3位に入れば出場決定となる。

そのほかの出場選手たちは4月13日の石垣島大会を含めたITUワールドカップ、そのほかのITUコンチネンタルカップでポイントを重ねるオリンピック出場ポイントの順で、出場が決定する。各国の最大出場選手枠は、3名まで。



スノーシルとフェルナンデスのサイド・バイ・サイドは5kmまで続いた

井出 樹里
(トージン・日東紅茶・TEAM KEN'S)



スイムのスタートで転んだがまあまあの位置であがれた。バイクは思いの外大きな集団になったのが幸いした。ランで、出だしは9位だったが一人抜いて8位になった。まだ、ランの追い込みの練習をしていないので、石垣島とアジア選手権に向けて調整していきたい。

山本 良介
(トヨタ車体)



スイムはもう少しいいタイムを出したかった。バイクは大集団になってしまったので差を付けることができなかった。ランに移ったのは25番手ぐらい。ランの登りで順位を15位程度まであげたが、下りで抜かれてしまった。それを繰り返して、後半リズムを崩した。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー

